

新装版発行にあたって

ホワイト・イーグルは「人は神の息子・娘」と繰り返しました。「人は動物」(ダーウィン進化論)を否定しました。一九七九年に靈示を終えたホワイト・イーグルは今、不死鳥となり地球を巡ります。全地球人の神の子復帰を伝えるために。

桑原啓善(二〇〇九年)

※本書は一九八六年(潮文社)発行の新装版です。

訳者序

私共は人類史上ただ一度の一大ショーを見る好運（悲運）に生まれ合わせています。核戦争・生態系破壊・人心荒廃・飢餓、どの一つをとっても、人類は今世紀のあと残す十五年の間に恐らく滅亡するでしょう。さもなければ、起死回生の文明の一大転換が起こり、夢想もできぬ新時代に突入するでしょう。

今日ほど、人類滅亡の予言、終末のささやきが地上に満ちている時代はありません。また、その反面、今日ほど新時代を迎えるための、靈示が湧き起っている時もあります。曰く、モーゼスの『靈訓』、カーデックの『靈の書』、シルバー・バーチの『靈言集』、そしてこのホワイト・イーグルからの靈示な

どです。

本書は、イギリスの霊能者グレース・クック女史が、ホワイト・イーグル霊から受信した霊示の最初の三部作“Morning Light”“Sunrise”“Golden Harvest”の訳です。

ホワイト・イーグルとは仮名で、その正体は聖ヨハネ、即ち、イエス・キリストの十二弟子の一人で、また新約聖書ヨハネ伝の筆者とも言われています。ホワイト・イーグルは大ホワイト霊団に所属しています。

ホワイト霊団とは、クック女史によると、次のようなものらしいのです。この霊団は、他界にある高級諸霊と、地上で人間に働きかける諸霊と、即ち顕幽両界にわたる一大組織から成っている。上方は遙か神界の彼方に及び、

下方、その啓示を人間に伝える役割をしているのがホワイト・イーグル霊である。この霊団の使命は、神の啓示を人類に、各時代を通じた各民族に、伝達することであった。それは従来から、主として神秘主義的な集団を通じて人類に伝えられてきた。例えば靈性開発の秘法、真理発見の法など、古代の知恵の遺産という形をとってきた。本書は、新たに、心靈研究の学徒を対象に伝えられたものである。「ホワイト・イーグルは、極めて高い意識の段階から語りかけてきます。威厳に満ち、しかも終始静かで謙虚です。柔和で輝きに満ち、その神聖そのものの雰囲気は、とても印刷をもつては、その片鱗すらお伝えすることは出来ません」と。

いったいどこが、新時代のための霊示なのでしょう。真理に背いて破滅

に向きあっている人類にとつては、真理そのものが新時代のための啓示です。シルバー・バーチ等と同じように、人間の実体を霊、即ち神の火花としている点は全く同様です。この靈性を、自己の上に、また人間生活全面の上に顕現すること、これが人間のあるべき姿、即ち新しい時代の文明の姿です。

バーチは、この靈性顕現の道を、人間同胞の真相に立つて、〈奉仕〉に求めます。ホワイト・イーグルも全く同様です。ただ、バーチがこの事を、人間の理性に向かって訴えるのに対し、イーグルは熱い信仰心に向かって訴えます。この点、いかにも聖ヨハネの特質がうかがえます。と申しても、一切の宗派宗教とは無縁です。

結論として、ホワイト・イーグルは、人間が此の世に生を享けた目的は、

自己が神性を発現して聖化することによって、地上の一切の生物・物質、ひいては地球全体を聖化するという人間の大使命があることを指摘しています。そのための方法を説いたのが本書です。いかがですか、このことと現在の人間の生活とがいかに関係にあるか。人間の物質的な幸福のためだけに結晶されているのが、人間の文明です。いかがですか、新時代の方向が見えてきたでしょうか。この不可能を可能とする、単純な方法の道がここに示されており、人類に、あと残された十五年間に、その決断を求めています。

読者が、人類の一大ショーの、まさか破滅への助力をなさることはあるまいが、本書を読まれて、単に傍観者としてとどまられるか、それとも、この一大ショーの演者として登場なさるか、ここは皆さんの決断のしどころです。

書中に、しばしば「キリスト」という言葉が出てきますが、これは二〇〇〇年前のイエスとははつきり区別されています。「神霊」の意味で使っています。それはまた人間に内在する「神性」でもあるのです。もつとこまかく申しますと、究極の大神霊の一つの表現体である太陽神霊、それが「キリスト」で、人間はその火花を真の「自我」としてしているわけです。通信霊はイエスの弟子聖ヨハネですが、内容はキリスト教とは無縁です。